

生徒が主体的に思考・判断・表現する言語活動の実践

岐阜県垂井町教育委員会 小竹 真史

1 はじめに

本報告は、岐阜県関ヶ原町立関ヶ原中学校の当時第3学年の生徒を対象に行った授業の実践である。また、本実践は、文部科学省 Mextchannel「中学校の外国語教育はこう変わる！③ ～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～」(<https://www.youtube.com/watch?v=eR4fxbWQsts>)に掲載されている。本実践を通して伝えたいことは、以下の二つである。



- 題材の魅力を引き出し、生徒の心をゆさぶり、伝え合う内容をもたせる
- 読むことの言語活動を魅力的なものにするポイントは領域統合である

2 題材の魅力を引き出し、生徒の心をゆさぶり、伝え合う内容をもたせる

学習指導要領では、主体的に学習に取り組む態度が大切であると示されている。以前、私は「目的、場面、状況をどのように設定し、生徒に、どのような言語活動に取り組ませるか。」と考えて授業を仕組んでいた。しかし、たとえ魅力的な言語活動を設定したとしても、そもそも生徒の中に伝え合う中身がなければ、主体的に伝え合う姿は生まれない。つまり、言語活動の設定だけでなく、生徒自身が表現したいと思う内容をしっかりとったり、その内容を豊かにしたりするための指導が必要である。その指導とは、教師が、教材分析をする際、題材の魅力を最大限に引き出し、それを適切なタイミングで提示しながら、生徒の心をゆさぶることである。

下のスライドのように、私は、教材分析の際、まず始めに、「学習到達目標」、「単元

【学習到達目標から】

- ・第3学年Unit6は、「話すこと[発表]」の最終単元。
- ・自分の意見や主張とその根拠等を、一貫性をもたせながら、スピーチすることができるようさせたい。

【単元の題材から】

- ・アウンサンソー・チーが題材。一体どんな人物だろう。
- ・タイトルは“Striving for a Better World”「世界のために尽力した偉人」

【生徒の実態から】

- ・生徒には「手放せない生き方」を手にして卒業してほしい。
- ・自分が話している内容を吟味(客観視)しながら、話せるようになってほしい。(思考と表現の同時進行)

「単元の最後には、尊敬する偉人とその理由について、自分の生き方と関わらせながらスピーチさせたい。」

「アウンサンソー・チーさんの生き方についてどう思うか」

秋田英語英文学会における説明スライド（教材分析の一部）

の題材」、「生徒の実態」から、本単元のねらいとともに単元終末の言語活動を設定する。NEW HORIZON Unit6“Striving for a Better World”という単元では、「尊敬する偉人とその理由について、自分の生き方と関わらせながらスピーチする」という言語活動を設定した。そして、単元を通して、アウンサンスー・チー氏の生き方について自分の考えを伝え合う言語活動を継続して取り組むことで、事実を基に、自分の生き方と関わらせながら、考えや気持ちを伝え合う力を高めることができると考えた。

アウンサンスー・チー氏の人生について書かれた英文をそのまま読むだけでは、生徒の心には何も残らない。アウンサンスー・チー氏の生き方に対する自分の考えを深めたり豊かにしたりするためには、書かれている英文の背景を知る必要がある。例えば、教科書には、“People needed a strong leader, and asked Aung San Suu Kyi to join them.”とあるが、なぜミャンマーの人々は、アウンサンスー・チー氏に指導者になるよう頼んだのか。教科書には、他にも、“In 1991, she won the Nobel Peace Prize.”とあるが、アウンサンスー・チー氏は、ノーベル平和賞で手にした賞金をどうしたのか。教材分析でこれらのことを調べ、授業で事実を英語で伝えると、生徒はその事実に驚いたり、アウンサンスー・チー氏の考え方や生き方を理解したりすることができる。

文部科学省 Mextchannel の授業において、2017年に起きた「ロヒンギャ危機」を取り上げたのは、この事実が、きっと生徒の心をゆさぶると思ったからである。教科書には、“The world that she wants may not come easily, but she keeps striving for it.”とあるが、この英文を単に日本語に直すだけでは、生徒の心はゆさぶられない。生徒がこの英文を心で受け止めるためには、ミャンマーという国で何が起きているのか、アウンサンスー・チー氏は現在どのような状況に置かれているか、ということを理解する必要がある。私は、「ロヒンギャ危機」を通して、「簡単には平和は実現しない」ということ、また、「今後生徒が答えのない問いに出会ったときには、悩んで考えて、自分の力でしっかりと判断することが大



BBC ニュースの画面

[Appendix 2] Part of BBC news

Nobel Peace Prize winner Aung San Suu Kyi used to be seen as a symbol of human rights and spent years under house arrest for promoting democracy.

Now, as Myanmar's civilian leader, she is at the International Court of Justice to defend her country against charges of genocide committed against the Rohingya Muslim minority. She will, in fact, be defending the very people who had previously imprisoned her - the military.

More than 750,000 Rohingya refugees have to leave Myanmar.

ワークシート裏面のBBCニュースの概要

事だ」というメッセージを伝えなかったのである。

BBC ニュースのキャスターが話している内容は難しく、“refugees”、“discrimination”、“dictatorship”など、当時の教科書では学習しない単語が多く使用されている。しかし、前単元や前時までには、キーワードとなるいくつかの単語については適宜指導してきており、授業で使用するワークシートにも、ニュースの概要を英文で載せておくなどの手立てを講じた。生徒は、難しさを感じながらも、「75万人以上の難民が祖国を追われたこと」「軍隊を保護していたのがアウンサンスー・チー氏だったこと」「当時、アウンサンスー・チー氏は裁判にかけられていたこと」については理解できたと思われる。この事実を知ったとき、生徒はしばらくの間沈黙した。その後、私が「どう思うか。」と尋ねたとき、ある生徒は “I think the government had to help Rohingya. I hope many refugees will not be hopeless.”と、たどたどしくも、しっかりと自分の言葉で考えを述べた。

このように、生徒が主体的に思考・判断・表現するためには、生徒の心をゆさぶる何か、言い換えれば「未知」との出会いが必要であり、教師は、絶え間なくその出会いを仕組むことで、生徒は伝え合う中身を深めたり豊かにしたりすることができると思う。(参考：中等教育資料 令和元年12月号『『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学習指導の工夫改善②(外国語)『実践研究』』)

3 読むことの言語活動を魅力的なものにするポイントは領域統合である

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編」の「3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、次のように記載されている。

特にペアワークやグループ・ワークは、「友達に質問をしたり質問に答えたりする力」を育成する上で有用であり、そうした情報や考えなどのやり取りを豊富に行うことで、互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠をもって外国語で伝え合う力を育成することにつながる。

生徒が英文を読む言語活動を行う際、「話すこと[やり取り]」の言語活動と結び付けて、一連の言語活動として仕組むと、生徒は主体的に取り組むことができる。

右のワークシート1は、文部科学省 Mextchannel の授業において、実際に使用したものである。新出語句の意味の確認を行った後、生徒は前後の文脈から()内に入れるべき語句を考える。その後、ペ

2. Let's fill in the blanks like the following.

In 1999, Aung San Suu Kyi's husband was (dying) of cancer. She wanted to visit him in the U.K., but she could not leave her (suffering) people (behind). In the end, she stayed in Myanmar and never saw him again. It was a sad (decision) that they made together.

In 2010, she was finally (set) free. She is still fighting for a world that is "free from the displaced, the homeless, and the hopeless." The world that she wants may not come easily, but she keeps (striving) for it.

You have to change some words a little.

ワークシート1：実際に生徒が書いた解答

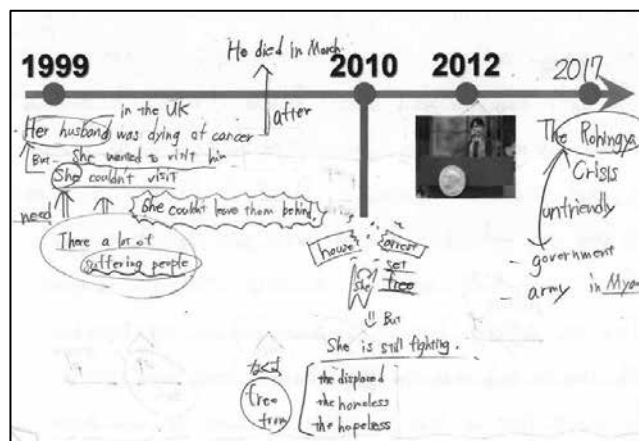
アワークを行い、どんな語句が入るか、なぜその語句だと考えたかについて交流した。このやり取りの際には、生徒は“What is here?”, “I think it’s …”, “Why do you think so?”のような簡単な表現を用いてペアワークを行った。

右のワークシート2も、実際の授業で用いたものである。この活動は、教科書を読んで、時系列に事実を書きまとめる“Timeline”という活動である。

この活動のポイントは、二つある。一つは、読み取った内容を英文ではなく、語句や図、イラストで表すことである。教科書本文を写すのではなく、事実関係を矢印で示したり、理解したことをイラストにしたりすることで、生徒は一層思考力を働か

せることになる。もう一つは、“Timeline”の活動の後に、ペアでワークシートを交換することである。たとえ同じ内容であっても、その表現の仕方は人それぞれであるから、生徒は興味をもって活動に取り組む。中には、“What does this picture mean?”と、自分にとってよく分からないイラストを指さして尋ねる生徒もいた。

“Timeline”の活動の後、生徒は、“What do you think of Aung San Suu Kyi’s way of life?”について、自分の考えを互いに伝え合った。その際、前述の Timeline で自分の作成した図を相手に見せながら話す生徒もいた。そして、何回かやり取りを行った後、右のワークシート



ワークシート2：実際に生徒が書いた Timeline



5. Write what you think of Aung San Suu Kyi's life and the Rohingya refugees.

January 28

Today I learned about Aung San Suu Kyi's way of life and the Rohingya refugees. Firstly, I think she is generous. She didn't leave suffering people behind when her husband was dying of cancer. She spent a lot of time and money for Myanmar to change. And she is strict for herself. It's because her decision is very sad and strict. But she never gave up. She is great. Secondly, I think we have to help Rohingya refugees. They are suffering. They are displaced, homeless and have less. We have to help them and they have to have their dreams. We have to strive to solve the problem and make the world better.

ワークシート3：実際に生徒が書いた英文

3のように、日記形式で自分の考えを書きまとめる活動を行った。書き始めは、“Today I learned about Aung San Suu Kyi’s way of life and the Rohingya refugees.”と指定して、全員共通とした。多くの生徒は、事実を基に、自分の考えや気持ちを英文に書きまとめることができたが、中には、教科書に書かれたアウンサンスー・チー氏の人生だけでなく、補足として私が説明した、アウンサンスー・チー氏の父親が暗殺されたこと、アウンサンスー・チー氏がノーベル平和賞の賞金を全額国に寄付したことなども踏まえて、自分の考えを書いた生徒もいた。

このように、話すこと [やり取り] の言語活動を、他の学習活動と関連付けながら授業を仕組むことで、生徒たちは主体的に取り組み、伝え合う内容が豊かになったり深まったりすることにつながると考える。